

「両親の家」について

林 健次 (鍛冶清水道株式会社|級建築士事務所)

光と影、風を見つける旅

敷地は、伊勢平野の真ん中、嬉野という街にある。鉄道の要衝にあり、名古屋と大阪の分岐点という利点が、土地区画整理事業という、都市化の波を、急激に引き連れて来たという場所である。

両親が住み始めた頃は、その駅も見えるほどだったようだが、この敷地にも着実に、その波が寄せてきてしまったようだ。空き地だった隣地には、住宅がギッシリと建ち、以前から建っていた住宅も、平屋建ての建物はほとんど2階建てとなった。もちろんこの事が、どうという事ではない。その波が、ただ寄せてきただけだ。

光と風を奪われた

前の家は、平屋建てで、前述のようなことから、「光と風」を奪われた形になってしまった。ぼかぼかした陽気が、大好きな私の両親にとって、それは残念だったと思う。この「両親の家」は、それらを取り戻す一つの旅なんだと思った。

そうだ、光の家だ！

光と共に、重要なファクターとしての風。それは、なんとと言っても通風としてである。通風といえば、建築構造上、あるいは、そこで生活する人間にとって、大切である事は理解していたつもりだったが、これほどとは思わなかった。

近隣地盤より結果的にやや低いGLだった事も、その要因だったかもしれないし、光が届かなくなったのも、その原因かもしれないが、旧の家は、突如として老朽化した。

伊勢平野の平均風向は、北西よりの風、もしくは夏に吹く南東よりの風。

ところが、前の家には、西側には開口が一つもない、さらには東側以外は、ふさがった状態となっている。

そう、風が奪われていたのだ！

光と影、風

～光と影～

立地条件の中で、光を取り込む一つの方法として、同時に、影を作り出す事を考えた。影の中に光を見つけ出す方法、あるいはその逆、

光に飢えている者にとって、それを探求する事は、容易なのではないかと、意識的に配置されたそのための小窓は、降臨のごとく、光の形を象って壁や床に投げかける。

南面は、あえて小窓のみとして、さらに「光と影」を強調させる。

夜は、外部に、小窓によって強調された光が映し出される。

外においてもそうだろう、そよそよとそよぐ風に踊る葉、それによって創られる光と影のハ－モニ－

光がよみがえった！

～風～

北側の二間幅の箱は、その通風のために作られた給排気装置である。

居間を始め、各部屋には換気を意識した窓開口・換気扇を配置し、緩やかな風が、換気装置へと導く。

装置では12の排煙窓が順次換気する。より多くの換気を必要とする時は、装置南側の排煙窓を開ければいい。

葉音がシャラシャラと気持ちいい。

風がよみがえった！

そこに住む人にとって、命と言うべき光建物を支える木にとって、命と言うべき風命がよみがえったのだ！

インスタレーション的

常々、デザインするにあたって、そこに起こりうる様々な状況や環境、施主・私・関わる人達、全てにおいて、インスタレーション的空間となるようとらえている。

その質は問わないにしても、普段そう言った事に接する機会が多くない人達に、何が提供できるのかは、私には非常に重要な問題である。

アクターを演じる必要はないが、それを傍観されたり、まったく主観的にみられたり、全ての状況・環境・関わる人達が、少なからず受け手になるのである。

その中心で、何を見て、何を聞いて、何を感ずるか。

刺激的だと思う。

さらなる探求の旅へ

またインスタレーション的空間が、生活そのものであると考えるため、建築が完成したとしても、それとその取り巻きにとってそれは結果とは言えない。

というか、客観的な結果なんてないのだ、、関わる人達が、それぞれの主観でどう考えて、どのような結果を描くか。

工事が完成して5年、

私にとって現時点で言えることは、住宅とは、生活であり、人生であり、家族である。と言う事である。

脈々と続くのである、、

光と影、風を見つける旅は、終わったのかもしれないが、

人生探求の旅は、まだ途中です。

「両親の家」

所在地

三重県松阪市嬉野中川町

主要用途

専用住宅

家族構成

夫婦+子供1人

設計

鍛冶清水道株式会社 | 級建築士事務所

林 健次 / 林 幹子

(構造・給排水衛生設備・電気設備共)

空調設備

東芝キャリア株式会社 (担当) 柳谷基樹

施工

建築

大清建築 (担当) 寺際清美

(株) 南山建設 (担当) 南山忠徳

設備

鍛冶清水道株式会社 (担当) 田中斎

東芝キャリア株式会社 (担当) 柳谷基樹

構造

主体構造・構法

木造

基礎

地盤改良の上ベタ基礎

規模

地上2階

軒高/最高高さ

6.802m/7.15m

敷地面積

341.86m²

建築面積

115.94m²

延床面積

143.26m²

工程

設計期間

2003年1月23日～2003年7月28日

工事期間

2003年8月1日～2004年4月28日

敷地条件

用途地域

都市計画区域内第1種住居地域

法22条区域

道路幅員

3.75m

駐車台数

3台～4台

外部仕上げ

屋根

耐水合板t-12、ガルバリウム鋼板t-0.4瓦棒

耐水合板t-12、FRP防水

外壁

ラスカット、モルタル、マジックコート吹付

ダイライトMS、杉板t-15、キシラデコール塗

開口部

アルミ製建具、木製建具

外構

土間コンクリート

割栗碎石80・30敷き込み

ピリ敷き込み

芝生

シャラ、クロガネモモチ

内部仕上げ

居間・洗面・1階便所・洋室

(床)

レッドパインフローリング(天龍木材)t-15

(壁)

PBt-12、パテ処理、AEP塗

(天井)

PBt-12、パテ処理、AEP塗

杉板t-15、ウレタン塗

和室

(床)

畳敷き込み

(壁)

PBt-12、パテ処理、珪藻土塗

(天井)

PBt-12、パテ処理、珪藻土塗

杉板t-15、ウレタン塗

吹抜・廊下・2階便所

(床)

レッドパインフローリング(天龍木材)t-15

(壁)

PBt-12、シナ合板t-5.5

(天井)

PBt-12、シナ合板(有孔)t-5.5

居間・洗面・1階便所・洋室

(床)

150角タイル貼

(壁)

150角タイル貼

ラスカット、モルタル、マジックコート吹付

(天井)

杉板t-14、ウレタン塗

土間

(床)

三和土

(壁)

PBt-12、パテ処理、珪藻土塗

(天井)

PBt-12、パテ処理、珪藻土塗

設備

給排水

給水/公営上水道、直圧、サヤ管ヘッダー方式

排水/公営下水道、分流、ヘッダー方式

給湯

電気温水器、直圧、サヤ管ヘッダー方式

空調

冷房/エアコン

暖房/エアコン

換気/24時間換気システム、第一種換気

電気

受電方式、1 3w200/100V、

中部電力Eライフプラン(3時間帯別電灯)

主な使用機器

衛生陶器/TOTO

システムキッチン/TOTO

照明器具/松下電工

カーテン・ブラインド・家具/無印良品